

瀑疾雨也詩曰終風且瀑是暴雨當作瀑雨其作暴雨者假借也

〔類聚名義抄〕七暴雨サメ 白雨サメ 霖サメ

〔下學集〕一村雨クラサメ

〔日本釋名〕上天象トウ暴雨クラサメ ゆふだち所々にむらくふりてふらぬ所もあるゆへなりさめはあめ也

さとあとよこに通ず春雨のさめも同

〔古事記〕中仁天皇驚起問其後曰吾見異夢從沙本方暴雨零來急浴吾面略

〔萬葉集〕十詠蟋蟀

庭草爾ニククニ村雨クラサメ落而蟋蟀キリキリ之鳴ナゲ音聞者アキツキニ秋付爾ニケ家里ケリ

〔古今和歌六帖〕一天むらさめ

人しれず物思ふ夏夏夫木和和のむら雨は身よりふりぬる物にぞ有ける

春雨

〔萬葉集〕四藤原朝臣久須麻呂來報歌二首略 中  
春雨乎待常二師有ハルサメ四吾屋戸之アハシ若木乃梅毛未含有ウツキノモイダフナリ

〔古今和歌集〕一題玄らす

梓弓おしてはる雨けふ降ぬあすさへふらば若菜つみてん

〔後撰和歌集〕一ある人の許に新参りの女の侍りけるが月日久しく經て正月の朔頃にまへ許されたりけるに雨のふるを見て

白雲の上しる今日ぞ春雨のふるにかひある身とは去りぬる

〔書言字考節用集〕一坤迎梅雨

〔倭訓栞〕前編四うのはなくだし 万葉集によめり卯花腐ウツクシの義なり降しの義とするは非也卯月の比雨のふりつゞきて花も腐る意なり西土にいふ迎梅雨也といへり

卯花ウツクシくたし